

azbil

azbilグループは「人を中心としたオートメーション」で
お客さまや社会に対する価値を創造し、それらを
ビルディングオートメーション(BA)事業、アドバンスオートメーション(AA)事業、
ライフオートメーション(LA)事業で展開していきます。

環境・省エネ

安心・安全

品質・生産性

そのために

私たちは、お客さまとともに、現場で価値を創ります。
私たちは、「人を中心とした」の発想で、私たちらしさを追求します。
私たちは、未来を考え、革新的に行動します。

そして、より付加価値の高い商品やソリューションの提供を
グループ一丸となって実現するために、

2012年4月1日より、山武をはじめグループ各社の社名を
「アズビル」を冠した社名に統一し、新たな歩みをスタートさせます。

どうやって省エネするの？

- 建物の省エネは、空気を冷やす設備と温める設備の運転方法を改善したり、建物の用途に合わせて空調を変えることで対応します。
- 工場の省エネは、製品、例えば石油の蒸留や飲料の製造過程で、温めたり、冷やしたりする温度をなるべく一定に保ったり、生産設備で使用する電気、蒸気、圧縮空気などを最小限に抑えたりすることがポイントです。
- 省エネはまず「計る」ことから始まります。次にいつ、どこで、どれだけのエネルギーが使われているかを計測し、無駄を省いていきます。重要なのは、「快適性」や「品質」を保ちながら無駄を省くこと。これを実現するには、生産や建物の管理の現場から事業運営にまたがる広い知識や連携が重要です。

azbilが提供する価値

- 1970年代から理念に「省」を掲げ、計測と制御の技術を駆使し、人と技術で社会のエネルギー使用を最適化します。
- 建物や工場の運用改善をサポート。個々の設備にとどまらず、建物や工場全体のエネルギー使用量を削減します。
- スマートシティ、スマートコミュニティの実現に向けて、企業や地域といった範囲でのエネルギーの効率化や削減を実現します。

世界のCO₂排出量の52.3%^{※1}は
建物、工場からの排出。
これを減らすことが
私たちの使命です。

製品・サービスの例

BUILDING AUTOMATION BUSINESS

- **BEMS**：建物のエネルギーを見える化し、省エネルギーを支援するシステムです。
- **CO₂マネジメントシステム**：事業者全体のCO₂排出量を一元管理するシステムです。
- **AdaptivCOOLTM※2**：空調負荷の高いデータセンター向けの冷却システムです。



CO₂マネジメントシステム



AdaptivCOOL

ADVANCED AUTOMATION BUSINESS

- **ENEOPTTM**：工場全体で使うエネルギーをエア、蒸気、電気などのシステムでとらえ、最適な省エネプランを提供する工場省エネルギーソリューションです。
- **FINEDEWTM**：電子部品や金属部品の熱処理工程やリチウムイオン電池などの製造環境の水分量を精緻に計り、省エネと歩留まり改善に貢献する露点計です。



ENEOPT



FINEDEW

LIFE AUTOMATION BUSINESS

- **きくぱりTM**：住宅の空調を全館で集中して行うことで、省エネルギーを実現する全館空調システムです。

※1 出典：国際エネルギー機関 (International Energy Agency) が毎年集計しているデータ“CO₂ Emissions from Fuel Combustion (2008)”より算出

※2 AdaptivCOOLはDegree Controls社の登録商標です



安心・安全

どうやって安心・安全な暮らしを実現するの？

- 工場をはじめとする大規模設備は、運用を誤ると地域を巻き込んだ大きな事故につながります。そのような設備を安全に運用するために、目に見えないところで異常を感知する計測器や、異常対応のプログラム、設備管理システムが活躍しています。
- オフィスやショッピング街、工場などで安心して仕事をするために、出入り管理を徹底したり、危険な作業を自動化したり、さらには微生物を検出するといったシステムが大きな役割を果たしています。
- 家庭に届く食品や水道水、電気、ガスは、生産から供給に至るまでの管理を一貫して行っています。
- 健康に異常や心配があるときは、24時間いつでもボタン一つで専門家が対応しています。

azbilが提供する価値

- 高度なセキュリティシステムや遠隔監視・制御技術によって、建物への不審者の侵入を防ぐとともに、設備が安全に稼働することを見守ります。
- 生産現場における空気中の有害物質をリアルタイムに監視することによって、安全に働ける仕事環境を実現します。
- 長年培ってきた計測・制御技術をベースに、電気、ガス、水道など社会インフラの安定・安全運用に貢献します。
- 行き届いたサービスによって、健康に不安がある人に安心と安全をお届けします。

安心して健康に暮らせる、
仕事ができる。
これを実現するのが
私たちの目標です。

製品・サービスの例

BUILDING AUTOMATION BUSINESS

- **savic-net™ FXセキュリティシステム**：指紋照合をはじめとするバイオメトリックス認証などで建物への入／退室者を管理するセキュリティシステムです。
- **リアルタイム細菌デテクタ IMD™**：空気内の微生物を瞬時に検出するセンサです。
- **総合ビル管理サービス BOSS-24™**：24時間遠隔で建物を監視するとともに、保守対応するサービスです。



savic-net FX
セキュリティシステム



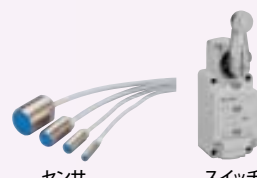
リアルタイム細菌デテクタ IMD

ADVANCED AUTOMATION BUSINESS

- **RXシリーズ**：関連機器と組み合わせて工業炉の安全運転を実現する燃焼安全制御機器です。
- **センサ/スイッチ**：機器の様々な状態を検知し、安全に運用します。
- **ISOP™**：24時間365日の緊急対応、遠隔での制御システムの診断などを提供する保守契約プログラムです。



RXシリーズ



センサ

スイッチ

LIFE AUTOMATION BUSINESS

- **ガスメータ**：自動遮断機能などの安全機能を持ち、ガスを安定・安全にお届けします。
- **緊急通報サービス**：一人暮らしの高齢者の緊急対応や健康相談を24時間365日看護師などの専門スタッフが応じるサービスです。
- **福祉用具貸与**：最新の洗浄機・消毒器・乾燥機を備えISO9001を取得したメンテナンスセンターを保有。清潔・安心・快適な福祉用具のレンタルサービスです。



ガスメータ



緊急通報サービス

暮らしやビジネスの“質” である快適性や生産性。 これを**追求**するのが 私たちの約束です。

製品・サービスの例

BUILDING AUTOMATION BUSINESS

- **savic-net™ FX**：建物の総合的な管理を行い、ビル運営業務をサポートするビルディングオートメーションシステムです。
- **流量計測制御機能付電動二方弁 ACTIVAL™**：設備管理の最適化を実現するマイコン内蔵の現場機器です。
- **BESTMAN™ EV**：遠隔からの状態監視保全によって効率的・効果的な建物運営をサポートするサービスです。



savic-net FX



流量計測制御機能付
電動二方弁 ACTIVAL

ADVANCED AUTOMATION BUSINESS

- **Industrial-DEO™**：製造・生産工程の生産性と品質向上に貢献する制御監視システムです。
- **計装ネットワークモジュールNX**：複雑化する生産現場の要求に対応するネットワーク計装モジュールです。
- **InnovativeField Organizer™**：生産設備に取り付けられている多数の調節弁や計測機器の状態を監視、診断するシステムです。



Industrial-DEO



計装ネットワークモジュールNX

LIFE AUTOMATION BUSINESS

- **健康支援サービス**：看護師・介護支援専門員・心理カウンセラー・管理栄養士などが24時間365日 健康相談・メンタルヘルスケア・特定保健指導・家族介護支援などを行うサービスです。
- **介護支援**：介護支援専門員をはじめ、介護福祉士・訪問介護員・福祉用具専門相談員などの専門家が質の高い介護サービスを提供しています。
- **計測機器の校正サービス**：「温度」「圧力」「湿度」「電気(直流・低周波)」「流量・流速」のJCSS (Japan Calibration Service System) 登録事業者として、トップレベルの技術で計測機器の校正作業を実施するサービスです。

azbilが提供する価値

- ・ オフィスなどの仕事空間を快適な温度・湿度、心地良い空気に制御し、生産性を向上させます。
- ・ オートメーション技術やIT技術により、生産性と品質・顧客満足度を同時に高めることができます。それにより仕事やビジネスの質を高めます。
- ・ センサやシステム、IT技術などを駆使して最適なオートメーション環境を構築し、コンサルティングやサービスによって常に品質と生産性を維持向上させます。

どうやって暮らしやビジネスの質を高めるの？

- ・ 「人」を取り巻く空気を心地良いものにするために、室内空気環境を計測・分析し、温度や湿度の調整、ほこりや花粉の除去、場所による温度差の少ない生活を実現しています。
- ・ 身のまわりの工業製品を、必要なときに安全・快適に使えるのは、様々な条件にすばやく対応でき、品質を保つ生産システムがあるからです。
- ・ 仕事をやりやすく、効率良く安全に進めるために、様々な情報や技術を使ったオートメーションによって設備を運転しています。
- ・ 市場のニーズや事業戦略、顧客情報など各部門が持つ情報を、現場設備の管理情報とリンクすることで、より広い視野での確かな経営判断を可能にしています。
- ・ オートメーションに使うセンサや流量計などの信頼性を高めるために、定期的な「校正」が大きな役割を果たしています。

ハイライト

3月31日に終了した事業年度

2010年度(2011年3月期)の状況

ビルディングオートメーション(BA)事業、アドバンスオートメーション(AA)事業の業績が着実に回復し、連結売上高・各利益は増収・増益を達成しました。また、環境指標においても、CO₂排出量を中期目標に向けて削減しています。

(百万円)

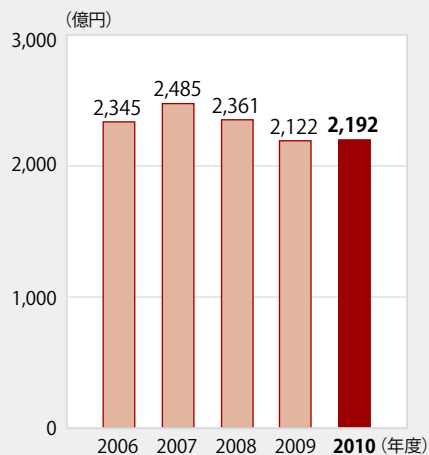
| | 2006年度 | 2007年度 | 2008年度 | 2009年度 | 2010年度 |
|---|----------|----------|----------|----------|-----------------|
| 事業年度： | | | | | |
| 売上高 | 234,572 | 248,550 | 236,173 | 212,213 | 219,216 |
| 営業利益 | 17,313 | 20,484 | 17,832 | 12,384 | 14,896 |
| 当期純利益 | 10,646 | 10,709 | 9,524 | 6,242 | 7,928 |
| 設備投資 | 5,272 | 4,488 | 6,413 | 2,704 | 3,302 |
| 減価償却費 | 3,890 | 4,387 | 4,503 | 4,751 | 4,460 |
| 研究開発費 | 8,776 | 9,844 | 9,635 | 8,640 | 8,952 |
| 事業年度末： | | | | | |
| 総資産 | 230,679 | 228,843 | 220,845 | 218,471 | 217,501 |
| 純資産 | 118,966 | 121,721 | 124,983 | 129,277 | 131,361 |
| 1株当たり情報： | | | | | |
| 当期純利益(円) | 144.71 | 145.63 | 127.87 | 84.52 | 107.35 |
| 純資産(円) | 1,602.33 | 1,641.73 | 1,672.91 | 1,728.64 | 1,754.86 |
| 配当金(円) | 50.00 | 60.00 | 62.00 | 62.00 | 63.00 |
| 財務指標： | | | | | |
| 自己資本比率(%) | 51.1 | 52.6 | 55.9 | 58.4 | 59.6 |
| 自己資本当期純利益率(ROE)(%) | 9.3 | 9.0 | 7.8 | 5.0 | 6.2 |
| 純資産配当率(DOE)(%) | 3.2 | 3.7 | 3.7 | 3.6 | 3.6 |
| 環境指標： | | | | | |
| CO ₂ 排出量(トンCO ₂) | 33,320 | 33,422 | 30,551 | 26,414 | 26,678 |
| 原単位(トンCO ₂ /億円) | 14.2 | 13.4 | 12.9 | 12.4 | 12.2 |
| 廃棄物発生量(トン) | 1,574 | 1,416 | 1,485 | 1,215 | 1,104 |
| 再資源化率(%) | 99.3 | 99.1 | 99.0 | 98.9 | 99.2 |

財務データの対象範囲： 山武および連結子会社

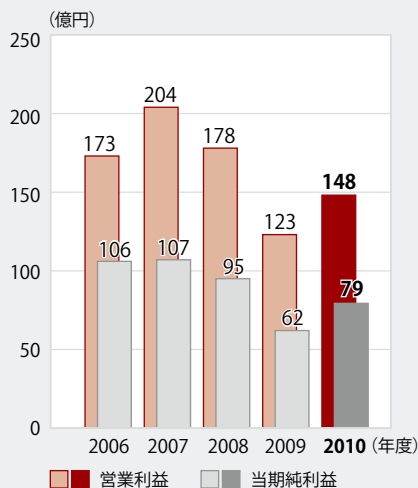
CO₂排出量の対象範囲： 山武、山武商会、山武コントロールプロダクト、山武ケアネット、安全センター本社、金門製作所およびその国内連結子会社、山武瑞穂、ロイヤルコントロールズ、太信

廃棄物発生量の対象範囲： 山武 藤沢テクノセンター・湘南工場・伊勢原工場、山武コントロールプロダクト、山武瑞穂、太信

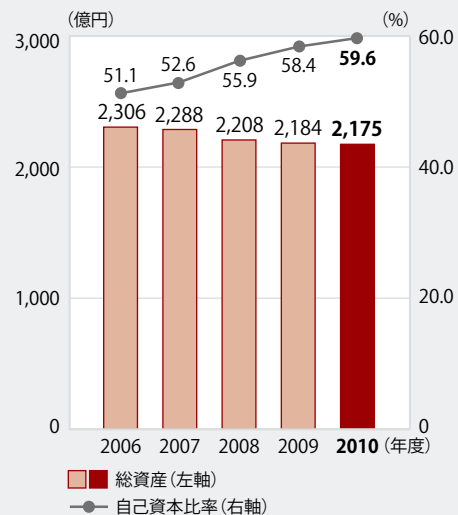
売上高



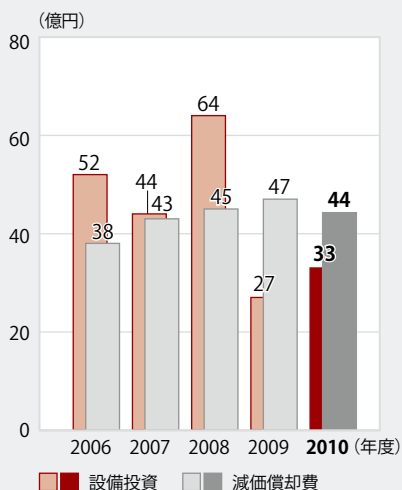
営業利益/当期純利益



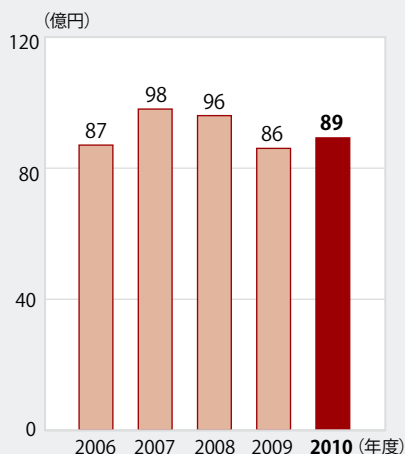
総資産/自己資本比率



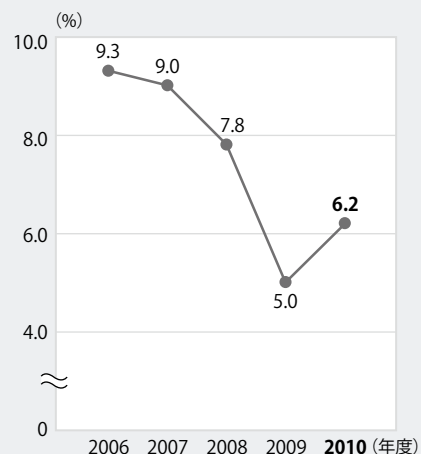
設備投資/減価償却費



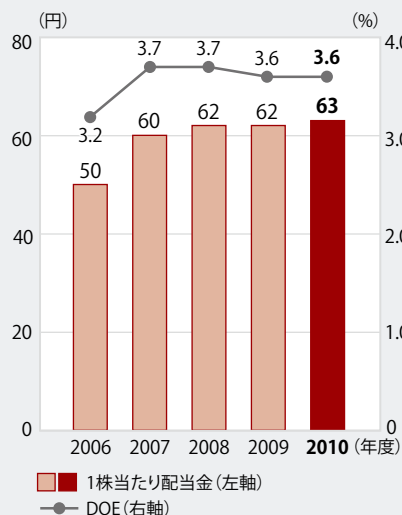
研究開発費



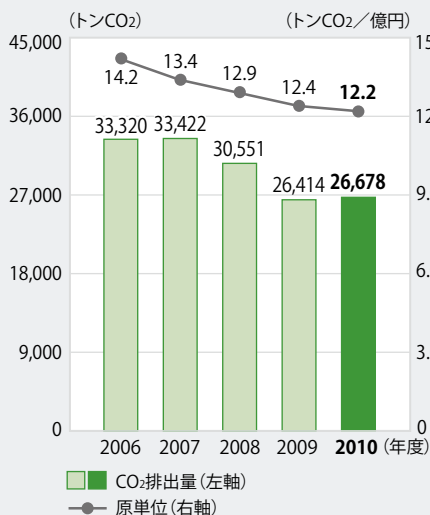
ROE



1株当たり配当金/DOE



CO₂排出量/原単位



廃棄物発生量/再資源化率





2011年3月11日に発生した東日本大震災により被災されました皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

azbilグループにおいても、東北地方に所在する工場や営業所において一部損壊などの被害が発生しましたが、震災発生後直ちに中央対策本部を設置し、速やかに対応策を立案・実施しました。この結果、大震災およびこれに伴う電力不足やサプライチェーンの寸断の影響を比較的軽微に抑えることができました。また、同本部を中心にお客さまの復旧に向けた支援にも取り組みました。azbilグループは、商品の納入からメンテナンスサービスまでお客さまの建物や生産施設のライフサイクルにわたって現場で価値を創造し提供することを事業の基本としています。事業の現場を、本業を通じて早急に復旧し、安全で安定した執務、操業ができるように協働させていただくことが、私たちの重要な責務であると捉え、グループ社員が一丸となり取り組んでいます。今後は、復旧・復興と併せ、今夏だけではなく中長期での省エネルギーといった観点から、引き続きお客さまの現場において全力を尽くしていきます。

さて、「発展期」と位置付けた新たな4カ年の中期計画の初年度である2010年度(2011年3月期)は、事業構造の変革に取り組んだ結果、増収増益を達成することができました。

2011年度(2012年3月期)も、お客さまとともに現場で課題を解決するというazbilグループの強みをより一層強化し、「商品」と「現場ソリューション」の両面から「商いの創造(事業構造の変革)」に取り組むとともに、良き企業市民としての自覚向上とその実践(CSR経営)を推し進めていきます。

株主の皆さまやお客さま、地域社会の皆さまをはじめとするステークホルダーの皆さまにおかれましては、引き続きのご支援、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

2011年7月

株式会社 山武
代表取締役社長

小野木 聖二

中期計画「発展期」の初年度であった2010年度について、施策の進捗状況や業績に対してどのように評価していますか？

重点施策を着実に推進するとともに、業績面でも増収増益を実現することができ、充実した1年でした。

2010年度の事業環境は、国内では景気刺激策の効果などから回復基調で推移する中、輸出の一時的な鈍化により足踏み状態となりましたが、生産活動の持ち直しに伴い総じて緩やかな回復基調に転じました。海外においては引き続き中国を中心としたアジア地域で堅調な拡大が続き、欧米においても緩やかに回復傾向が見られました。

2010年度のazbilグループは、「発展期」と位置付けた新たな4カ年の中期計画の初年度として、急速に変化する事業環境に対応するために、成長著しいアジアを中心とした海外展開、および規制強化により新たな需要が期待される環境・省エネを切り口とした事業構造改革に重点的に取り組みました。

その結果、2010年度の連結業績は、売上高が前年度比3.3%増加の2,192億円、営業利益は同20.3%増加の148億円、当期純利益は同27.0%増加の79億円と増収増益となりました。事業別では、ガス・水道メータの販売、介護・健康支援などのサービスを展開するライフオートメーション(LA)事業が、LPガスメータの需要減退の影響や東日本大震災による操業停止の影響から減収減益となりましたが、主にオフィスなどの商業建物向けに空調自動制御やセキュリティなどの製品・サービスをお届けするビルディングオートメーション(BA)事業およびプラントや工場などの生産現場向けに製品・ソリューションを提供しているアドバンスオートメーション(AA)事業の業績が着実に回復し、堅調に推移しました。

azbilグループを取り巻く事業環境は回復しつつあったものの想定よりは弱く、年度末には未曾有の大震災といった不測の事態に直面したため、業績面では計画比で未達となってしまいましたが、増収増益は達成することができ、事業施策面では数多くの成果を挙げる事ができたことから、手応えを感じる事ができた1年であったと評価しています。

(単位：億円)

| | 2009年度 | 2010年度 | 対前期比増減 | 計画 | 対計画比増減 |
|-------|--------|--------|--------|-------|--------|
| 売上高 | 2,122 | 2,192 | 3.3% | 2,250 | △2.6% |
| 営業利益 | 123 | 148 | 20.3% | 160 | △6.9% |
| 当期純利益 | 62 | 79 | 27.0% | 82* | △3.3% |

※ 期中に計画を修正しています(期初計画：95億円)

中期計画「発展期」の重点取り組み施策に掲げた「商いの創造」の進捗状況について、詳しく教えてください。

「海外展開」、「環境・省エネ」を切り口にした変革は、目に見える成果が出始めています。

azbilグループでは、アジアなどにおける新興国の興隆や環境問題、少子高齢化、新技術・



高付加価値化などの「市場の構造変化」に対応すべく、事業構造を変革する「商いの創造」を推進しています。その切り口として掲げているのが「海外ソリューション事業」と「環境・省エネソリューション事業」です。

「海外ソリューション事業」では、お客さまの設備のライフサイクルに合わせ、制御システム・現場機器の導入からメンテナンス、更新までを行い、常にお客さまの設備を最適の状態に保つ事業を展開しています。2010年度(2011年3月期)は、グループのエンジニアリング、サービス体制の強化を目的に、アジア各地域のバルブメンテナンスセンターを拡充するとともに、エンジニアリング力強化のためのアジアソリューションセンターを設立しました。全世界で稼働する10,000システム以上の実績をベースに既設プラントを進化・延命させる独自プログラムの展開も開始しました。一方で、製品単位でのソリューション展開にも力を入れており、各地域におけるお客さまのニーズに応じたきめ細かい商品開発力強化の結果、北米で大きな成果を挙げることができました。また、各国現地企業との連携による市場開拓にも積極的に取り組みました。中国や韓国などにおいては、国内で培ったBA事業の省エネノウハウを武器に、現地企業との提携によって数多くの大型空調案件の受注に成功しました。

「環境・省エネソリューション事業」では、クラウド化などにより市場の急速な拡大が期待でき、省エネが喫緊の課題であるデータセンター市場の深耕・拡大に向け、azbilならではの膨大な蓄積データとその分析力に加えて、商品の品揃えによるソリューション力の強化を図りました。また、事業間のコラボレーションも進んでいます。例えば、半導体製造現場などのクリーンルームでは、空調に多くのエネルギーを消費することから、従来からBA事業において様々なソリューションを提供してきましたが、これに加えて、AA事業の商品や技術を活かし、クリーンルームにエネルギーを供給するユーティリティ設備や生産設備における省エネを実現することで、生産現場全体での省エネソリューションにまで発展させた案件が生まれてきています。

また、東日本大震災によって夏場の電力供給不足が懸念される中、オフィスや生産現場トータルでの省エネソリューションの引き合いが増えており、今後もBA事業とAA事業が一体となったazbilグループならではの価値提供の機会が増えていく見込みです。

さらに、LA事業では、住宅用全館空調システム「きくばり」で、一戸建て住宅市場のおよそ

50%を占める30~35坪の建物向け新商品の開発やCM展開など市場の開拓を本格化させました。「きくばり」は、BA事業でのノウハウを活かして住居における省エネと同時に、ヒートショックの防止や花粉・ハウスダストの除去など快適で健康的な住空間を実現します。リーズナブルな価格設定によって、“快適・省エネ・クリーン”をより多くのお客さまに提供していきます。

事業構造を変革する「商いの創造」

環境問題や少子高齢化、新技術・高付加価値化などの「市場の構造変化」に対応すべく、事業構造の変革(=商いの創造)を推進

海外ソリューション事業

環境・省エネソリューション事業

海外におけるライフサイクルソリューションの展開

海外プロダクトソリューションの強化

安全を切り口とするアジアインフラ市場への参入

国内の大規模節電ニーズに応えるBA、AA、LA連携のソリューションを提供

国内省エネ実績をベースとした海外顧客の開拓

■ azbilグループのCSRの特徴はどのようなところにあるのでしょうか？

事業の強みを活かした“本業を通じてのCSR”を積極的に展開しているところであると認識しています。

azbilグループでは、CSRを中期計画の重点項目の一つとして積極的に取り組んでおり、その活動を「基本的CSR」と「積極的CSR」の2つに分けて捉えています。

「基本的CSR」は、コンプライアンスや環境など、azbilグループが社会の一市民として果たさなければならない基本的責務です。特に地球環境への配慮はazbilグループにとって重要なテーマであり、2013年度(2014年3月期)までにazbilグループのCO₂総排出量を2006年度(2007年3月期)比で10%以上削減することを目指しています。

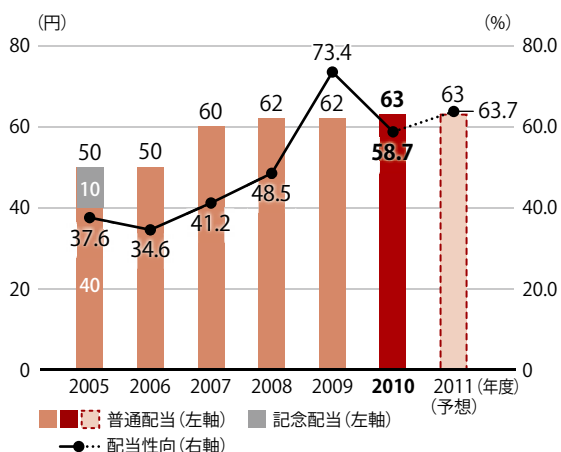
一方、「積極的CSR」としては、事業の強みを活かした“本業を通じての社会貢献”や“自主的な社会貢献活動”に取り組んでいます。私たちの製品やサービスを融合させた付加価値の高いソリューションはオフィスビルや工場の省エネルギーの実現に貢献し、お客さまのCO₂排出量の削減、ひいては地球環境負荷低減に大きく寄与していると自負しています。これら本業を通じた社会貢献のみならず、ESCO事業などで取得したCO₂クレジットを地域のイベントに還元するなど、常に本業とリンクした持続的な活動を意識しています。

本来、CSR活動と事業活動は別々のものではありません。この2つの活動を融合させたCSR経営が現場レベルまで根付いていることがazbilグループの強みであると認識しています。

■ 2010年度は増配を実現しました。2011年度(2012年3月期)は先行きが不透明な経営環境の中、配当維持の予想です。株主への利益還元に関する考え方をお聞かせください。

株主重視の姿勢を貫き、株主への利益還元の維持・向上に努めていきます。

1株当たり年間配当金／配当性向



azbilグループは、株主の皆さまへの利益還元を経営の重要課題の一つとして位置付けています。連結業績、ROE(自己資本当期純利益率)、DOE(純資産配当率)の水準と、将来の事業展開および企業体質強化のための内部留保などを総合的に勘案した上で、配当水準の向上に努めつつ、安定した配当を維持していくことを基本方針としています。

2010年度は、期初の公表どおり増配の1株当たり63円としました。2011年度については、震災の影響など国内の事業環境に不透明さが残りますが、継続的な利益還元を目指し、1株当たり63円の年間配当金を予想しています。これにより、2011年度のDOEは3.5%、配当性向は63.7%となる見込みです。



2012年4月1日に、社名を「アズビル株式会社」に変更することを発表しました。変更の理由や狙いについて教えてください。

グループシンボル「azbil (アズビル)」を制定してから5年が経過し、国内外に浸透してきたことを踏まえ、さらなるブランド強化を図るべく社名の変更を決定しました。

山武は1906年に山武商会として創業し、「苦役からの解放」を理念にオートメーションで社会の要請に応えてきました。この想いは、その後「Savemation (セーブメーション)」を経て、現在のグループ理念「人を中心としたオートメーション」に発展的に受け継がれています。

「人を中心としたオートメーション」という理念の象徴としてグループシンボルを「azbil (アズビル)」と定めてから5年が経過し、国内外に浸透してきたことから、創業105周年を契機に社名を「山武」から「アズビル」に変更することを決定しました。併せて、国内主要各社も同時に「アズビル」を冠する社名に変更します。

今回の社名変更により、グループ理念、グループ名称、そして国内外グループ各社の社名が統一されることとなります。私たちazbilグループは、お客さまとの多面的な接点を持ち、「商品」と「現場ソリューション」の両面からお客さまの課題解決に貢献する企業グループです。お客さまと様々な現場・場面において「azbil」というシングルブランドを通して接することで、azbilグループの認知度を向上させ、グローバルでのブランド強化・確立を図るとともに、グループ一体経営をさらに進め、国内外社員が一丸となって新たな課題に挑戦していきます。

最後に、小野木社長の「世界トップクラスのオートメーション企業グループ」を目指す意気込みをお聞かせください。

製品・ソリューションの展開スピードをより一層高め、世界に類のないオートメーション企業グループとなります。

ここ数年、想定以上のスピードで市場の構造変化に伴う事業環境の変化が進みました。このため、より一層の事業構造の変革を目的とした「商いの創造」に重点的に取り組み、グローバルに“人と技術が協創するオートメーション世界の実現”に注力していきます。

オートメーションを提供する企業は数多くありますが、製品の提供と同時に、お客さまの現場で課題を解決するソリューションまでを提供する企業はそう多くありません。ましてや、「人を中心とした」の発想でビジネスを行っている企業はazbilグループだけであると自負しています。お客さまのニーズは、環境変化とともに尽きることがありません。各種製品・ソリューションの展開スピードをより一層高め、世界に類のないオートメーション企業グループを目指します。

株主の皆さま、お客さま、地域社会の皆さまをはじめとするステークホルダーの皆さま方におかれましては、着実に一歩ずつ進化するazbilグループの今後の成長にご期待ください。

